



また、介護保険制度改正に対応する新しい地域支援事業への取り組みとして、生活支援コーディネーターを配置し、今後の生活支援介護予防サービスの基盤整備を整えてまいります。更に、高齢者が安心して生活できるように、地域包括支援センターへつなぐブランchedを1か所設置し、相談窓口の充実及び地域包括ケアシステムの構築に取り組みでまいります。

障がい福祉につきましては、本年度は、基本計画となる「第4次石垣市障がい者福祉計画」と実施計画となる「第4期石垣市障害福祉計画」がスタートする年度にあたります。これら計画の実現に向け、「障害者総合支援法」に基づき、各種障がい福祉サービスや相談支援及び地域生活支援事業を実施してまいります。特に、基幹相談支援センターを主体とした相談支援の更なる機能強化を図ってまいります。自立支援の取り組みにつきましては、「就労自立」をサポートと連携を図り、「就労自立」を支援すると同時に、「生活困窮者自立支援法」とも連動する生活困窮者自立支援事業を導入し、自立の促進に努めてまいります。

地域の魅力あふれる「いしがき」

4. 活 力

冒頭でも申し上げましたとおり、昨

活かし、スポーツイベントとしての定着化とブランド化を図り、消費効果を地域に波及させ、活性化を図ってまいります。

トライアスロンにつきましては、コアスや交通規制など大会のあり方を見直すため、昨年度は開催を見送り、再開にむけ関係団体等と調整をしてまいりました。本年度からは、スポーツ競技団体が主催し、本市は共催という立場で安全確保に万全を期すとともに、大会の開催を心待ちにしていた全国のトライアスリートをはじめ、市民、関係者から歓迎されるよう、石垣島を舞台にしたスポーツウエルカム事業の一環として、スポーツを通しての更なる観光誘客を図ってまいります。

5年後には、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。開催に向けては、本市の温暖な気候、移動手段の利便性、選手の心と体を利用し、国内外選手のキャンプを誘致してまいります。その受け入れ態勢として、スポーツを通じた地域経済の活性化や観光振興を図るためのスポーツコミッションについて、本年度に設置される国のスポーツ庁の動向や県、他市町村の取り組みを調査・研究してまいります。

文化観光の振興につきましては、本

年は約111万6千人という過去最高の入域観光客数を記録しました。この好調を維持するためにも、本市の観光理念である「島ぬ美(かい)しゃ、心(きむ)美(かい)しゃ」を体現する観光受入基盤の仕組みづくりを推進した観光まちづくりに努めてまいります。具体的には、観光需要の安定化により期待される地域経済の活性化やリピーター獲得に対する観光課題である消費額や満足度の向上、そして、観光資源としての自然環境の保全、着地型観光コンテンツの造成、空港や港から観光目的の二次交通の充実、観光地としての魅力強化や人材育成などに取り組んでまいります。

また、会議・報奨旅行・展示会などの総称であるMICEにつきましては、市民会館の設備改修により、良好な環境で利用しやすい施設として整備をすることで、島内外のプロをはじめとするアーティスト及び団体による多くの公演等の誘致につなげてまいります。そして、これまで以上に多種多様な質の高い場を提供することにより、市民の更なる文化水準の向上にも寄与してまいります。

観光誘客の基盤となる観光施設及び観光地の再整備につきましては、「観光施設再整備計画」に基づき、昨年度から米原キャンプ場のトイレ・シャワールームの改修を実施しております。本市の観光価値を三(さん)線(しん)の調律を意味する「ツンダミ」と定義し、文化と観光を複合した規模感のある野外イベント「ツンダミ アイランド フェスティバル」を開催し、本市のリゾートイメージを国内外にアピールする象徴となるよう取り組んでまいります。

特産品のブランド化につきましては、本年度も引き続き、総合的かつ網羅的な事業展開を図ってまいります。具体的には、特産品開発を支援するための開発支援事業、特産品の知名度向上や新商品のマーケティング、更に国内外における販路拡大・開拓を推進するためのプロモーション及び優位性がある農水産物を活用した特産加工品づくりとブランド化、作り手を育成する人材育成事業を実施してまいります。

商業振興・中心市街地活性化につきましては、向こう6年間を見据えた「石垣まちなか活性化戦略プラン」におけるリーディングプロジェクトの確実な実施と、商工会、観光交流協会、商店街、民間事業者等との協働体制の構築をより一層図ってまいります。

本市の基幹産業である第1次産業のさとうきび振興につきましては、昨年度は、生産性の向上及び省力化に対応するため、集団営農用機械の整備並びに中型ハーベスターを1台導入しました。本年度は、北部地区及び北西部地区を

度は、その完成と玉取崎展望台の改修に向けた設計を実施し、魅力ある観光施設づくりに努め、観光客のリピーター増加を図ってまいります。

スポーツツーリズムの推進につきましては、「スポーツ！ウエルカム！石垣島！」を展開しており、昨年度は誘致活動を行った結果、「全国ヴァンテージ・8(エイト)バレーボール大会」と「極東オセアニア地区の航空会社対抗の「FESP(フェスパ) エアライン」バスケットボール大会」が本市で初めて開催されました。大会を通じて、国内外から多くの方が石垣島を訪れ、全国に、そして世界に広く石垣島をPRすることができました。本年度は、ロケーションと施設、島のおもてなしを最大限に活用することにより、スポーツキャンプが集まる場所「石垣島」を目指し、新規を含め、積極的にキャンプや大会等の誘致活動を実施してまいります。

「初ランは石垣島で！」を合言葉に実施した第13回石垣島マラソンは、過去最多の5,059人の申込みがあり、全都道府県からの参加に加えて、6つの国と地域から79人の申込みをいただきました。このことにより、目標とされていた5,000人を突破し、今後は国際的な大会を目指し、更に発展させてまいります。本年度は、本市の魅力である自然や文化、また、日本最南端のフルマラソンという優位性を更に

重点地区として、新規に2台の機械導入を実施してまいります。

また、農業における地域資源の適切な保全管理を推進するために、「多面的機能支払交付金」を活用し、農用地法面の補修、鳥獣害防護柵の適正管理、グリーンベルトの設置、台風や大雨前後の対策、農道の補修・清掃などの作業を行う活動組織を支援してまいります。

緊急優良母牛更新事業につきましては、昨年度は、畜産農家に対し、約80頭の産肉能力の高い優良牛の導入を実施しました。本年度も引き続き畜産農家に対し、昨年度と同数程度の予算を確保し、産肉能力の高い優良牛の導入を実施してまいります。

水産業の振興につきましては、地元産のモズク、マグロ、ソデイカなどを一次加工する県内初の複合型水産加工施設が本年度に完成します。完成後は、産地協議会において、安定供給、衛生管理の充実、品質管理の拡充を行うことにより、付加価値の高い商品を提供してまいります。また、北部地域においては、「漁村地域整備交付金」を活用して、船越漁港の航路浚渫と浮桟橋の整備、伊野田漁港の東屋の整備を継続的に行い、漁業者の就労環境の改善を図ってまいります。同時に、登野城漁港内の波高を穏やかに保つために、